

平成29年9月30日

同窓会名簿 挨拶

秋田県立本荘高等学校 校長 今井 智幸

### 「白玲瓏」、「玲瓏同氣」と本荘高校同窓会のつながり

本校創立115年の今年度、同窓会発足110周年をめでたく迎えることとなりました。同窓会110周年行事が盛大に開催されるとともに、新たに同窓会名簿も発行される運びとなり、改めて同窓会関係者各位に心からお祝いとお喜びを申し上げます。

1902年（明治35年）創立された秋田県立本荘中学校は、1907年（明治40年）に第一回卒業式が挙行され、第一期生四十一名が母校を巣立ちました。その年の八月、本荘高校同窓会の前身である本荘中学校同窓会が発足しました。県内では旧制中学最初の同窓会の発足で、最古の同窓会の誕生となります。本校の名称が秋田県立本荘高等学校となった1948年（昭和23年）8月、本荘中学同窓会から現在の本荘高等学校同窓会に改称されました。また、開校十周年記念式が行われた1912年（明治45年）に、本校の校歌が制定されました。校歌制定も同窓会発足同様、県内で最も古いものとなります。秋田高校の校歌制定が1922年（大正11年）、大館鳳鳴高校1915年（大正4年）、横手高校1925年（大正14年）となっています。

校歌制定、同窓会発足とも県内最初であるという事実、本荘中学校創立が当時の学校関係者のみならず地域の人々にとってもいかに大きな喜びであり誇りであったかが偲ばれます。また、そこに本校の校標の一つ「玲瓏同氣」の源泉を見ることができるようになります。

本校同窓会を象徴する言葉は、「玲瓏同氣」。1952年（昭和27年）仲秋の10月10日、創立五十周年記念式が挙行され祝賀行事として、「玲瓏同氣」碑の除幕式と物故者の慰霊祭が厳粛に行われました。「物故者の霊を新設記念の場に迎えて慰霊し、且つ共に母校現在の隆昌を祝福し、更に職員・同窓生・在校生が一体協力し今後の躍進への努力を誓わん」としたのであり、「母校の永遠の躍進と隆昌は、融合一如『玲瓏同氣』の力が脈々と発し、生々として躍動する」（『本荘高校百年史』）ことが祈念されたのでした。「玲瓏同氣」という言葉は、在職三十年の小野純治先生から与えられたと記されています。

1907年（明治40年）の第一回卒業式の直前に創刊された校誌「白玲瓏」は、「烏海の雪を象った白銀雪華の校章にちなんで名付けられ」（『本荘高校百年史』）ていますが、編集発行は職員生徒と同窓生で組織された本荘中学校校友会でした。ここに「玲瓏同氣」の端緒を見ることができるようになります。たぶん、「玲瓏同氣」の発案者小野純治先生の心には、「白玲瓏」創刊・発行に携わって「職員・同窓生・在校生が一体協力」していた師弟、同窓の融合一如の有り様や、本校そのものを象徴する玲瓏雪華の校章に対する深い思いが交錯していたのかもしれない。

110年にわたって今なお現在の本校同窓会に脈々と流れ、同窓会の雰囲気、本質、精神を豊かに形作っているもの、……親和、敬愛、連帯、支援、一体性等の象徴が「玲瓏同氣」という理念です。

会員皆様のこれからの益々の御活躍、御健勝を祈念するとともに、今後とも本校教育活動への御理解と御協力・御支援をお願い申し上げ、御挨拶といたします。